

## 解 説



# 「品質工学」誌の価値を高めるために（その1）

*For Enhancing Value of Journal of Robust Quality Engineering Society (1)*

出版部会編集委員会

参加者：矢野耕也（日本大学），江末良太（IHI），窪田葉子（日本水環境学会），坂本雅基（花王），澤田位（NMS研究会），高橋和仁（神奈川県立産業技術総合研究所），細井光夫（小松製作所），見原文雄（日本能率協会コンサルティング），吉原均（キヤノン）

編集委員外参加：上杉一夫（上杉技研）

## 本座談会の狙い

坂本 品質工学研究の普及や発展について，学会誌をこれまで以上に活用してもらうためにはどのように編集したらよいか，あるいは学会誌の価値を高めるための編集はどうあるべきか等について話し合いたい。定例の編集委員会では限られた時間の中で決められた議事予定をこなすのが精一杯なので今日の席はこのテーマだけで話し合うために設けた。

一方，論文投稿数が減ってきている中ではあるが，相変わらず企画や編集や査読に苦勞している。投稿論文や論説，解説等の投稿を促すとともに，査読と編集作業をスムーズに進めていくために種々の課題もある。

論文投稿を促す施策としては，今回の大会から会員が社外発表の社内手続きを1回で済ませられるように，大会発表の予稿を論文投稿できるようにした。引き続き新しいカテゴリーの創設や，投稿の種別・区分の明確化など，改善策を実施してゆきたい。

今日は上杉さんにも参加していただいているので，まずは一連の改善の中に新しいカテゴリー「QE スクエア」の新設があるが，どのようにすればこの欄が地域の研究会活動に利用していただけるか検討してみたい。

もともと地域の研究会は学会の支部として組織されているわけではない。それ故に各地の研究会はそ

れぞれに特色を有した活動を展開している。

## 研究会活動と学会誌の役割

澤田 以前から地域の研究会の皆さんにもっと学会誌を活用していただきたい，と考えていた。地域の研究会には全国に向けて発信したいことがもっとあるはず。先般，神奈川県立産業技術総合研究所（以下，神奈川産技総研）が主催し，神奈川品質工学研究会の共催で実施した「品質工学フォーラム in 神奈川」に参加したのがきっかけだった（本誌 Vol.27, No.3 に報告所収）。また関西品質工学研究会による創立20周年記念講演会の開催報告も掲載された。一つのモデルになるのではないかと感じている。

坂本 関西品質工学研究会では，今秋，京都技術科学センター等との共催で「品質工学シンポジウム2019 in おおさか」を計画している。また25周年でも特別記事を載せたいという希望があるようだ。

澤田 他にも東北品質工学研究会が毎年開催している機能性評価祭り（現在は「タグチメソッドフェスタ」と名称変更）がある。NMS研究会では毎年2月に公開研究会を開催している。ほかの研究会でもそれぞれ特色ある活動を展開している。以前，東北研究会の“祭り”に参加させていただいたことがあ